

城を歩く会 4月定例会「日帰り見学会」

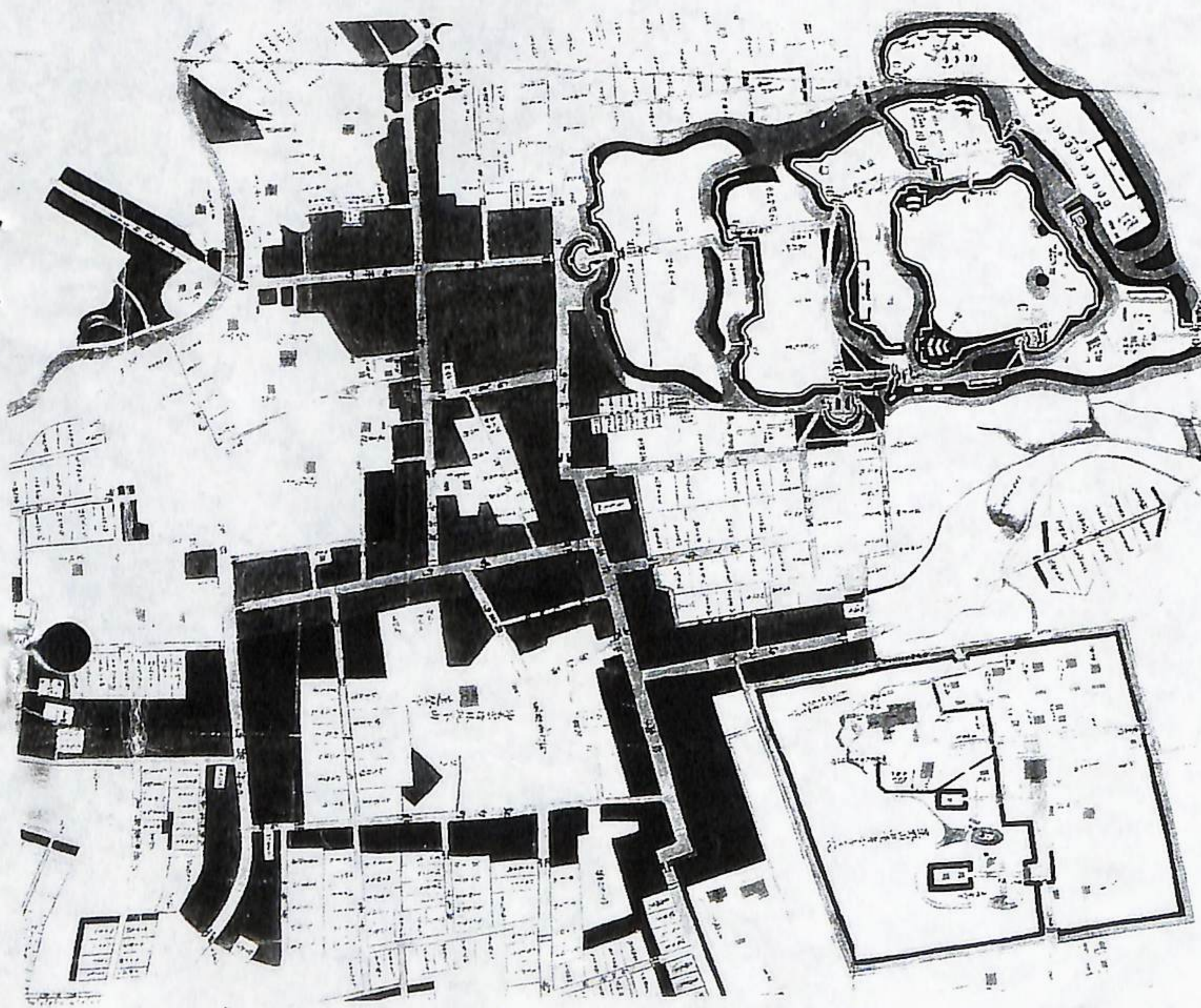
川越城と蔵の町を訪ねる

山岸弘明

平成26-4-9

本日の主要スケジュール

- 10時00分 西武新宿線『本川越駅』スタート
- 10時20分~11時00分 喜多院
- 11時15分~14時00分 川越城（昼食時間を含む）
- 14時00分~ 時の鐘、蔵の町、菓子屋横丁
- 15時30分ころ 現地解散



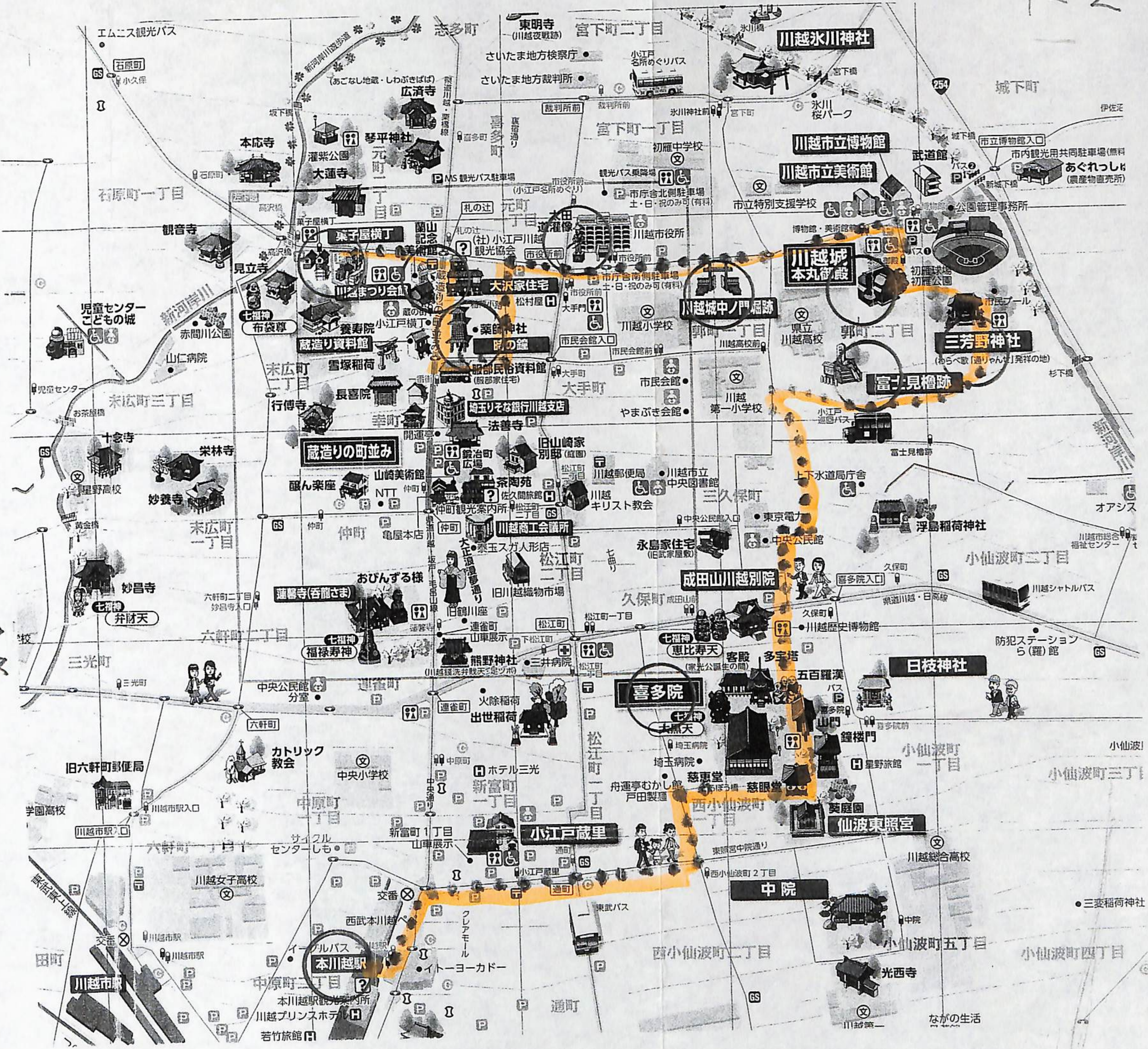
喜多院 ↓

川越城 ↓

蔵の町 ↓

本日のコース →

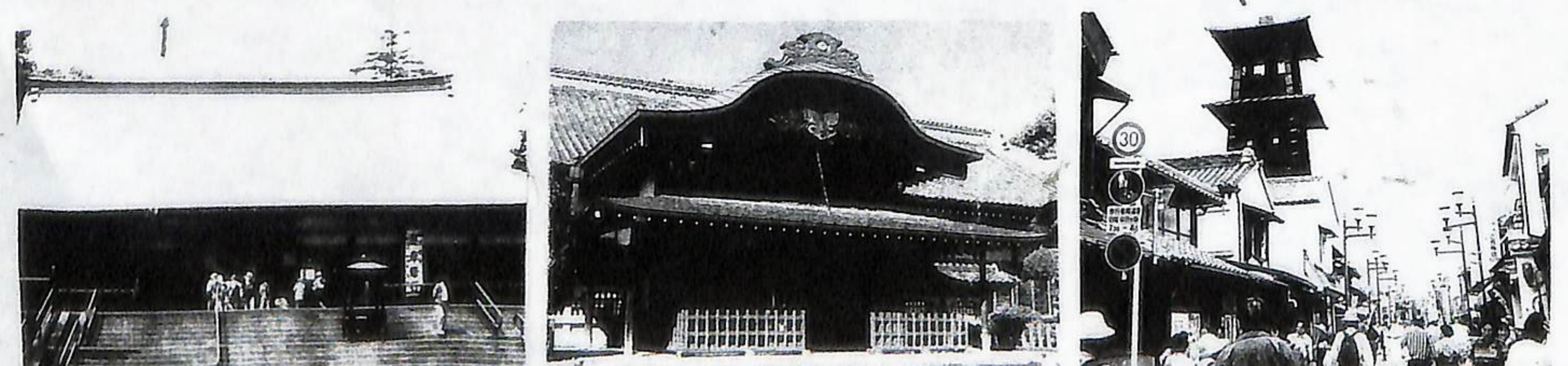
江戸後期川越城絵図 ←

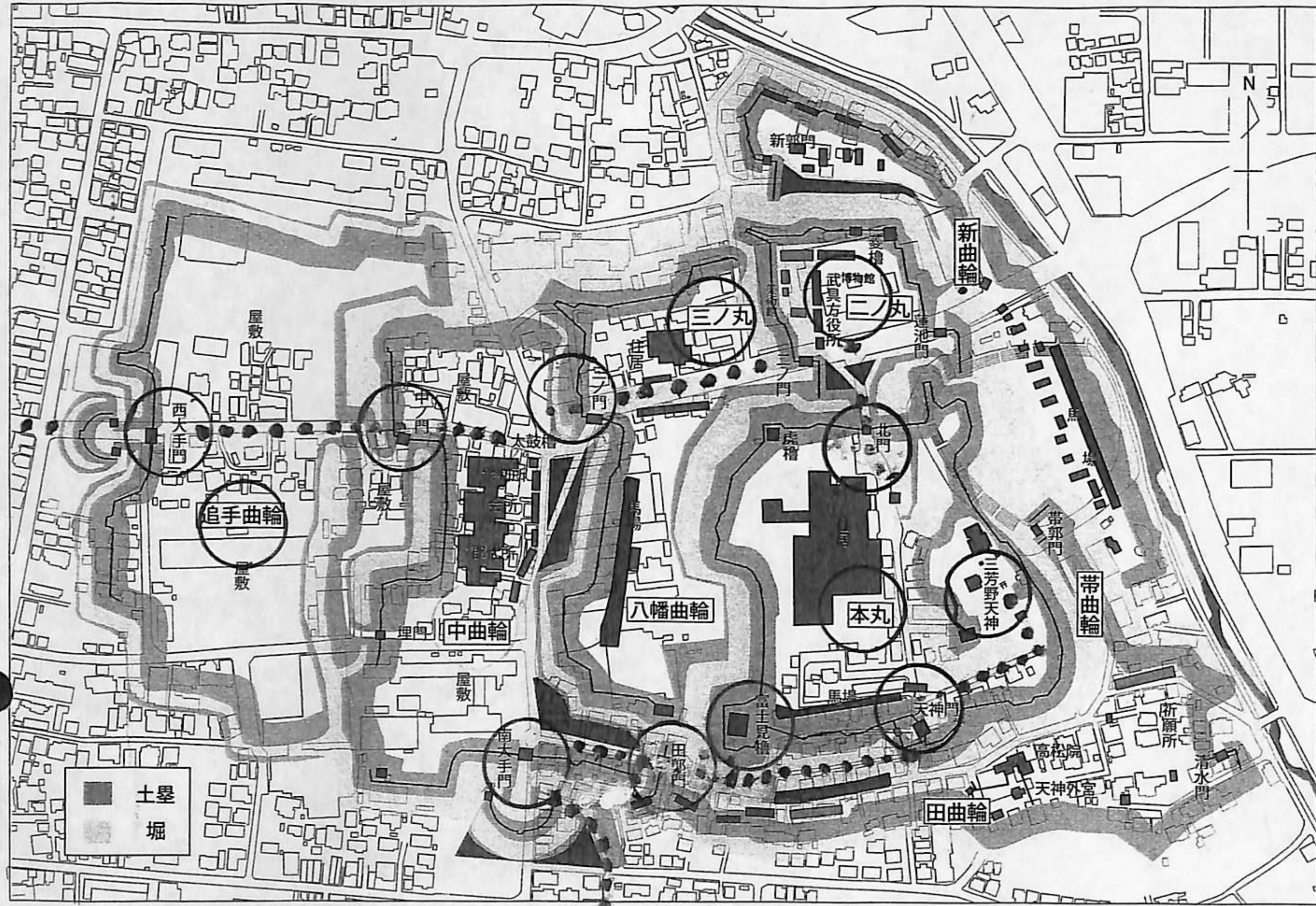


川越城は関東戦国時代はじめての長禄元年（1457）、扇谷上杉持朝が古河公方に対抗するため、家執の太田道真、道灌親子に命じて築城させた。持朝と道灌はこの城を拠点に古河足利成氏と関東の覇権をかけた攻防を繰り返し、道灌没後、山内上杉家も対立して三つ巴となった。

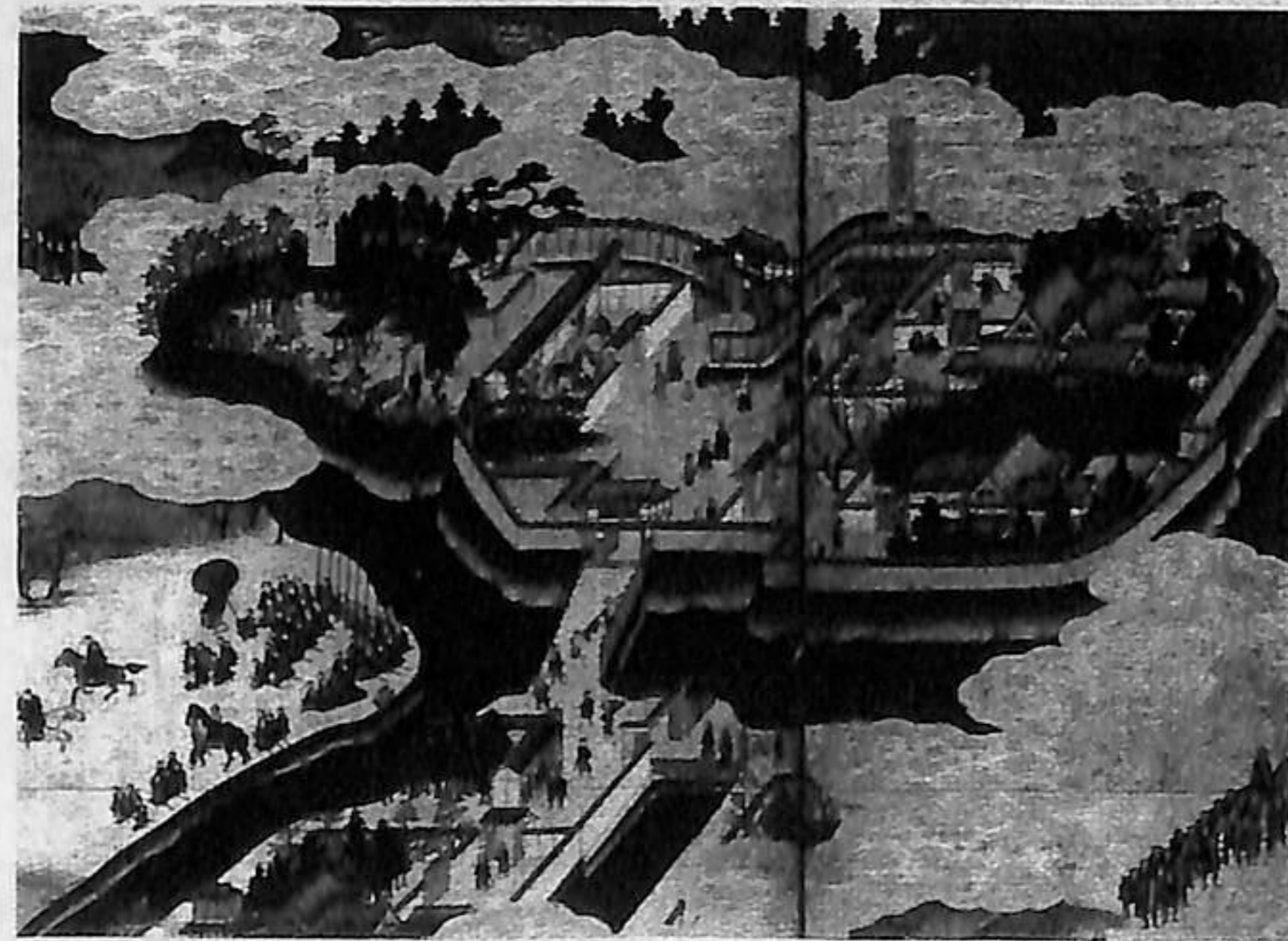
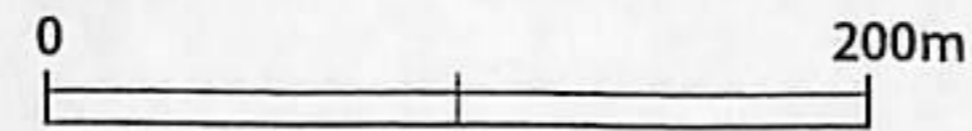
天文6年（1537）間隙をついて関東に進出した小田原後北条氏に攻められ落城、あわてた扇谷氏はライバル山内氏と古河公方と和解して奪回をめざすが奇襲にあつて大敗し、上杉謙信の庇護を受けることになる。以後後北条氏は関東最大の戦国大名へとその支配権を拡大していった。

天正18年（1690）豊臣秀吉の小田原攻略で川越城は前田利家に攻められて落城、徳川家康の関東入府以後は江戸を守る重要拠点として酒井忠勝ら幕府の要職にあつた譜代大名が封じられた。明治維新後、次第に解体され住宅地や公園になったが、幕末嘉永元年（1848）建造の本丸御殿と本丸周辺が城址公園として、町並みは城下町と蔵造りの町として往時を偲ばせている。





本図は、慶応3年頃に作成された「川越城図」を平成18年3月作成の「川越市都市計画基本図14」に細部を調整のうえ、投影したものです。



『江戸百景』に描かれた川越城 (国立歴史民俗博物館蔵)

城主	前封地	在城年代	移封地	幕府役職等
酒井重忠	三河西尾	天正18～慶長6.3.3	上野厩橋	
酒井忠利	駿河田中	慶長14.9.23～寛永4.11.14没		留守居
酒井忠勝	武蔵深谷	寛永4.11～寛永11. 閏7.6	若狭小浜	老中(のち大老)
堀田正盛		寛永12.3.1～寛永15.3.8	信濃松本	老中
松平信綱	武蔵忍	寛永16.1.5～寛文2.3.16没		老中
松平輝綱		寛文2.4.18～寛文11.12.12没		
松平信輝		寛文12.2.9～元禄7.1.7	下総古河	
柳沢吉保		元禄7.1.7～宝永1.12.21	甲斐府中	大老格
秋元喬知	甲斐谷村	宝永1.12.25～正徳4.8.14没		老中
秋元喬房		正徳4.9.29～元文3.9.5没		奏者番

城主	前封地	在城年代	移封地	幕府役職等
秋元喬求		元文3.10.28～寛保2.4.3致仕		
秋元涼朝		寛保2.4.3～明和4. 閏9.15	出羽山形	老中
松平朝矩	上野前橋	明和4. 閏9.15～明和5.6.10没		
松平直恒		明和5.7.29～文化7.1.18没		
松平直温		文化7.3.14～文化13.7.23没		
松平齊典		文化13.8.27～嘉永3.1.23没		
松平典則		嘉永3.3.7～嘉永7.8.13致仕		
松平直侯		嘉永7.8.13～文久1.8.15没		
松平直克		文久1.12.6～慶応2.10	上野前橋	政事總裁職
松平康英	陸奥棚倉	慶応2.10.27～明治2.4.10致仕		老中
松井康載		明治2.4.10～明治4.7.14	鹿藩	川越藩知事

江戸城北西の要=川越城を歩く

1) 川越と川越城——プロローグ

- ①川越の地名=始め河越、川肥とも書いた。三方を囲んで曲流する入間川の渡河に由来した。
- ②中世川越城=15世紀関東戦国時代の長禄元年、大田道灌築城。当時は本丸と2の丸だけ。太田氏、扇が谷上杉氏支城をへて後期は小田原北条氏領となった。
- ③近世川越城=天正18年豊臣秀吉の小田原攻略で徳川家康領になる。寛永時代、老中松平信綱が城容を整え、江戸城北西の要めとする。以後、城主は酒井忠勝、堀田正盛、柳吉吉保、松平直克ら幕府重臣が勤めた老中城。
- ④関東のほとんどの城と同じ「土の城」で石垣や天守はない。

2) 水濠廻した喜多院——川越城外郭

保科講師担当
屋根補修工事中のため喜多院の客殿、書院、庫裏の見学はできません

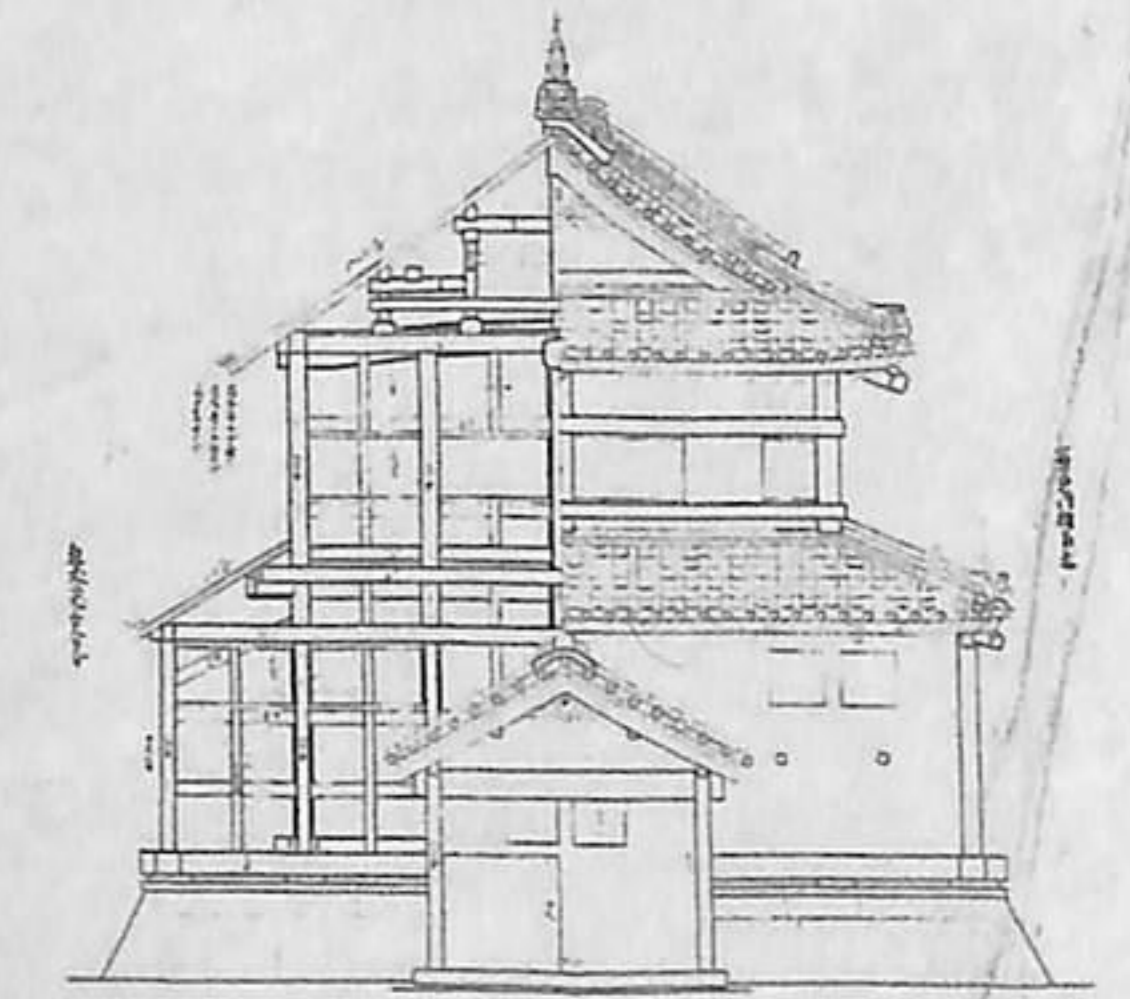
3) 天守代わりの富士見櫓跡——南大手門から城内へ

- ①喜多院から川越城の南城、田郭から城内へ。戦後の都市化で土塁や水濠が破壊されたが、地形は変わらない。城絵図で遺構を観察しながら進む。
- ②南大手門跡、田郭跡、本丸水濠跡
- ③富士見櫓(御三階櫓)=江戸城支城(外城)としてあえて天守と呼ばない。譜代の誇り。飾り破風のない質素な三重三階櫓。関東には水戸、佐倉、古河、関宿城などに。普段は武器庫として施錠、緊急時は本丸守りの射場。天神門横矢
- ④埼玉県説明看板=富士見櫓跡

御嶽神社が祀られているこの高台は、かつては川越城の富士見櫓が立てられていたところである。櫓は矢倉とも書いて、合戦の際に物見として、あるいは防戦の足場として、城壁や城門の高い場所に設けられた建物を意味するが、天守閣のなかった川越城には東北の隅に二重の虎郭、本丸の北に菱郭、西南の隅に三層の富士見櫓があって城の中で一番高いところにあった富士見櫓が天守閣の代りとなっていたと思われる。今日では木々や建物のためすっかり眺望も失われてしまったが、その昔はこの高台に立てば富士山までも望めたことであろう。

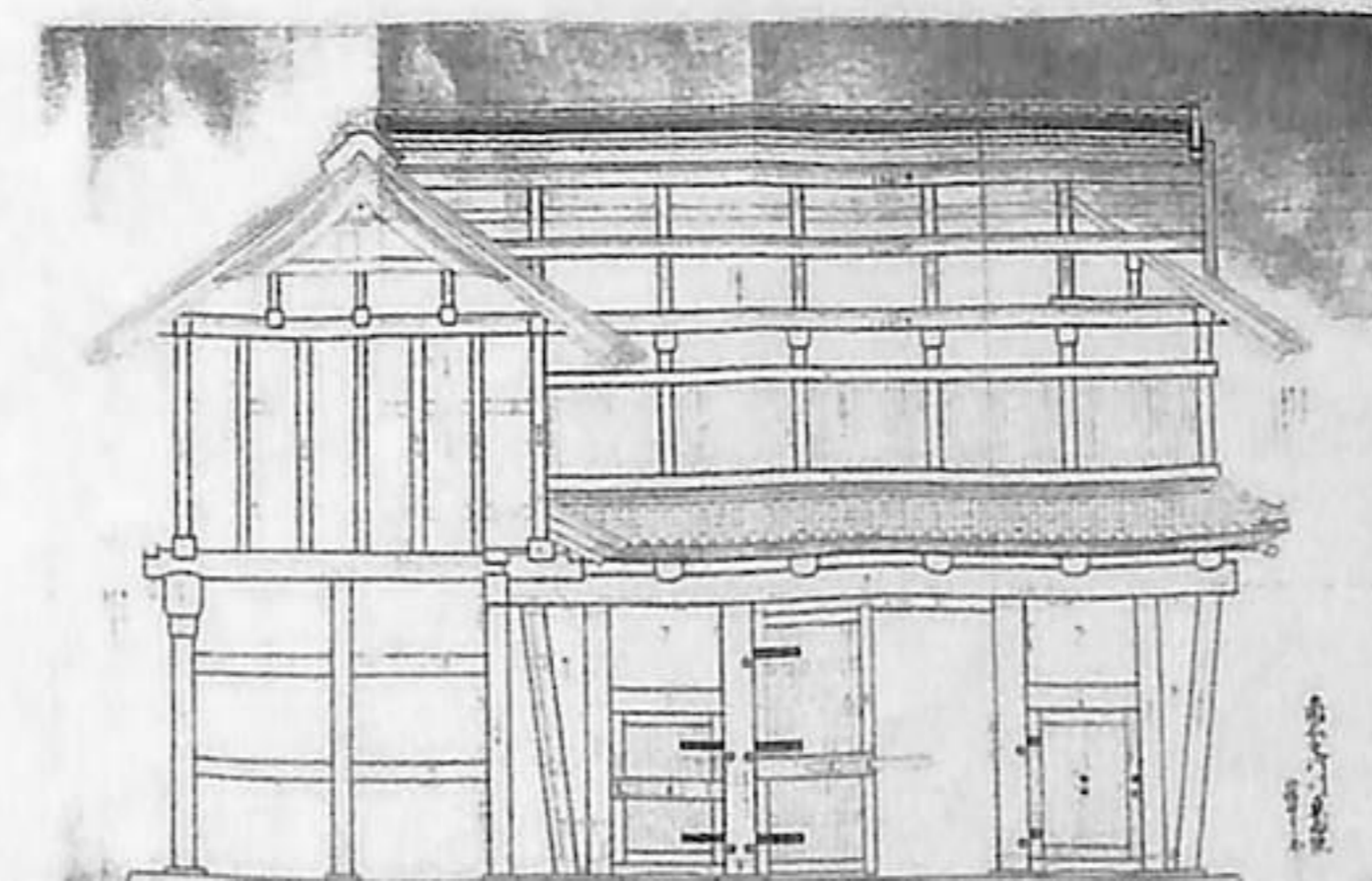


富士見櫓現況

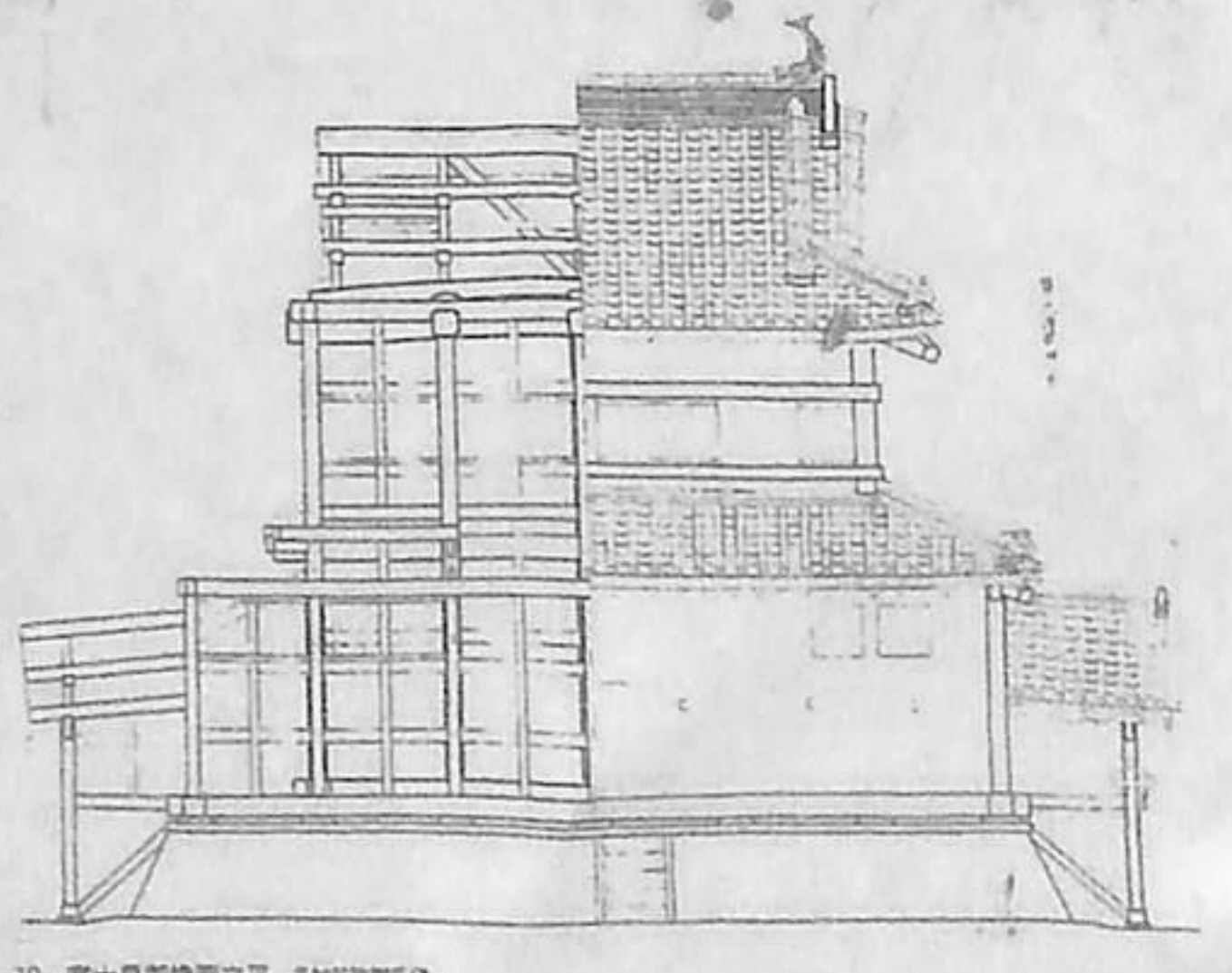


38 富士見櫓南面 多田啓祐氏蔵

南大手門 ↓ 富士見櫓



本丸水濠跡



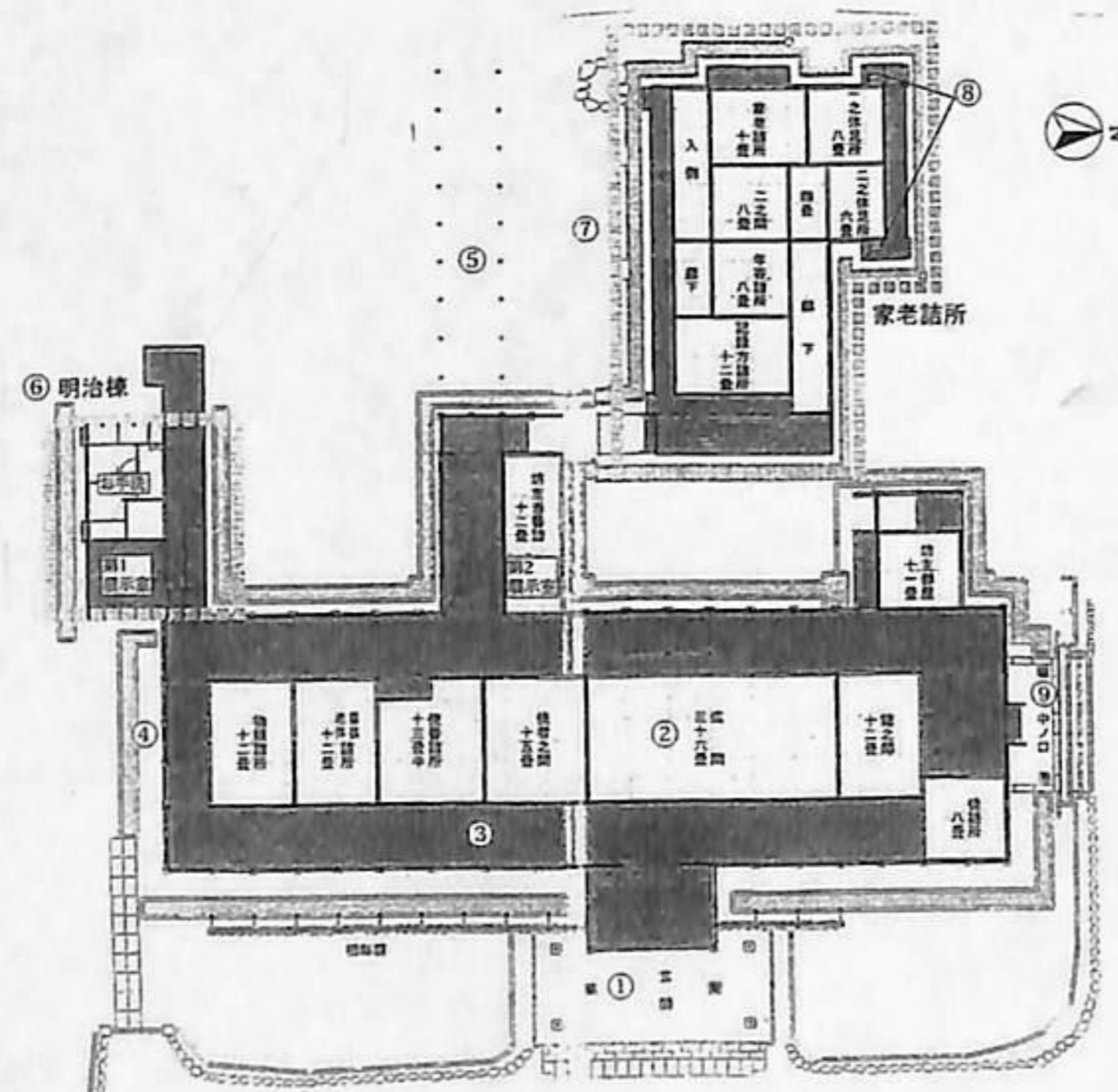
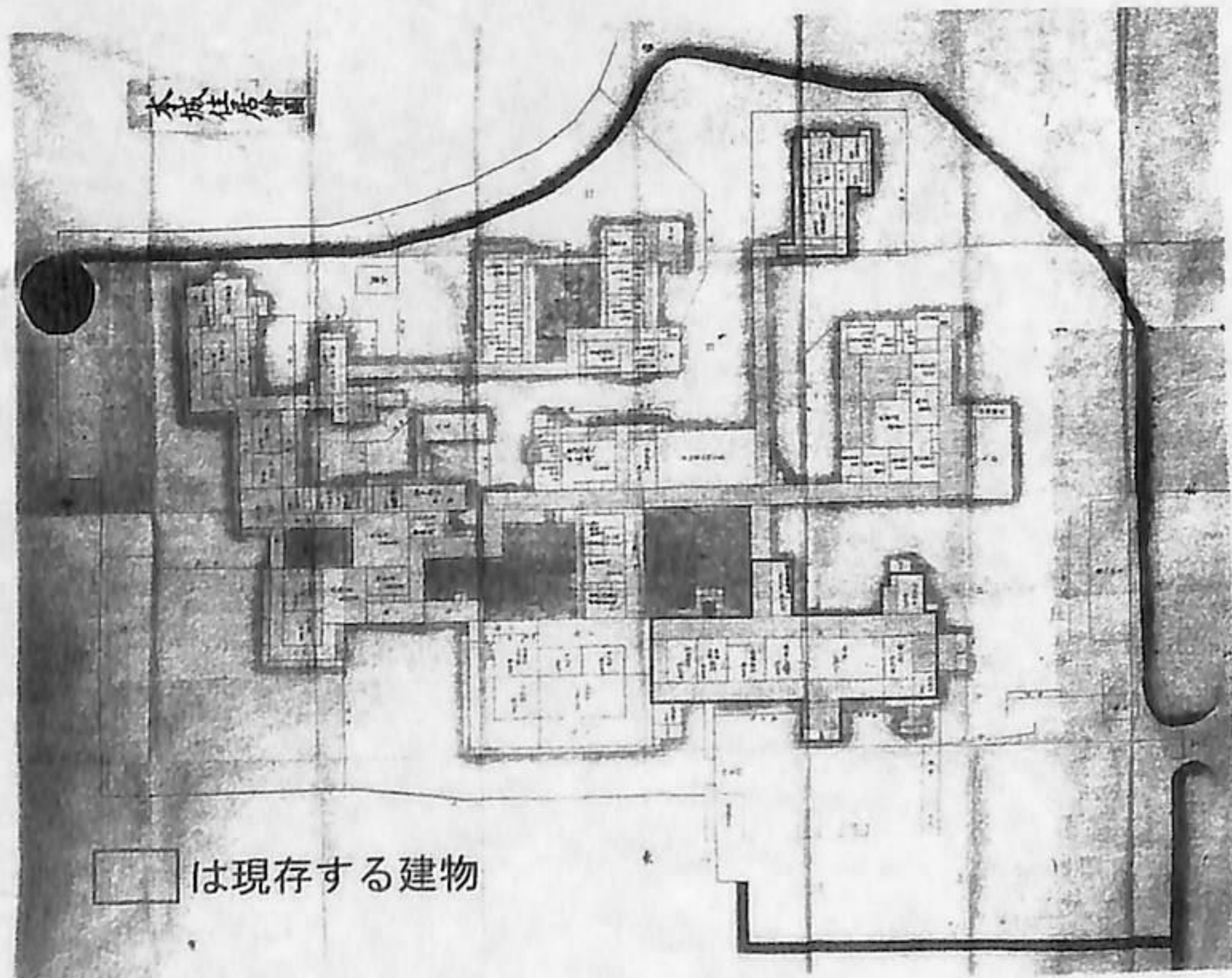
39 富士見櫓西面 多田啓祐氏蔵

4) 行きはよいよい帰りは怖い——とうりゃんせの道

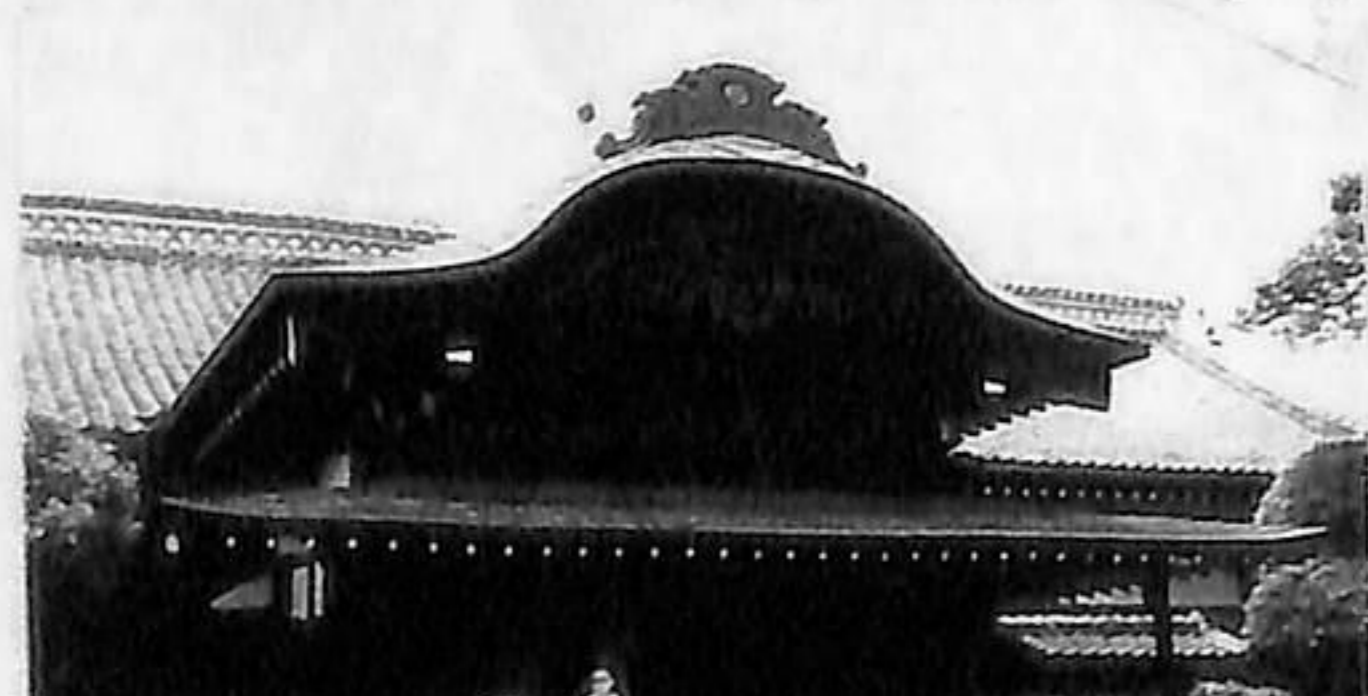
- ①天神門跡
- ②三芳野神社=平安時代はじめ大同2年創建とされる。後菅原道真を祀る。城の鎮守で徳川家康が朱印20石を寄進、歴代城主に崇敬された。
- ③童謡「とうりゃんせ」の道。寛永時代神社が城内に取り込まれて一般の参詣は年に一度の祭礼だけになった。いくつもの城門を通り抜けて本丸の裏、帰り道を間違えたら大変。「怖いながらも通りゃんせ」となった。
- ④初雁公園(県指定史跡=城址公園)=三芳野神社後ろに初雁の杉という古杉があり、カリが飛来するたびに留り3声鳴いたという。
- ⑤周囲の土塁は本丸御殿との仕切り。現存本丸土塁。
- ⑥周辺で持参のお弁当を楽しむ。

5) ボランティアガイドの案内で本丸御殿を見学

- ①川越城の規模=敷地面積およそ5万坪、4重の水濠に囲まれ、本丸、2の丸、3の丸、中郭、追手郭、天神郭、帯郭、田郭の8郭からなる。かつて本丸御殿を中心に富士見櫓、虎櫓、菱櫓などを配し、城門も12をかぞえた。現存する本丸御殿はかつての4分の1にも満たないが川越城の格式と歴史を偲ばせている。
- ②明治維新の「存廃令」で廃城、建物は売却、取り壊されたが本丸御殿の一部は公会堂、専売局、武道館などに使用され残った。城地は川越市役所、川越高校、初雁中学校、第一小学校、市営球場と一般民家になりほとんどが破壊された。
- ③本丸御殿=高知城と全国2か所しか現存しない
桁行き19間、梁間4間。大入母屋造り、棧瓦ぶき
大唐破風玄関=霧よけ(車寄せ)、式台。間口3間
広間、鐘の間、使者の間、使い番詰所=36畳敷きなどの座敷が並ぶ
大書院跡、大廊下跡
家老詰所=明治維新後商家に払い下げられたが、昭和42年市に寄贈され復帰、重職詰所の現存は珍しい。現在地は旧地ではない。



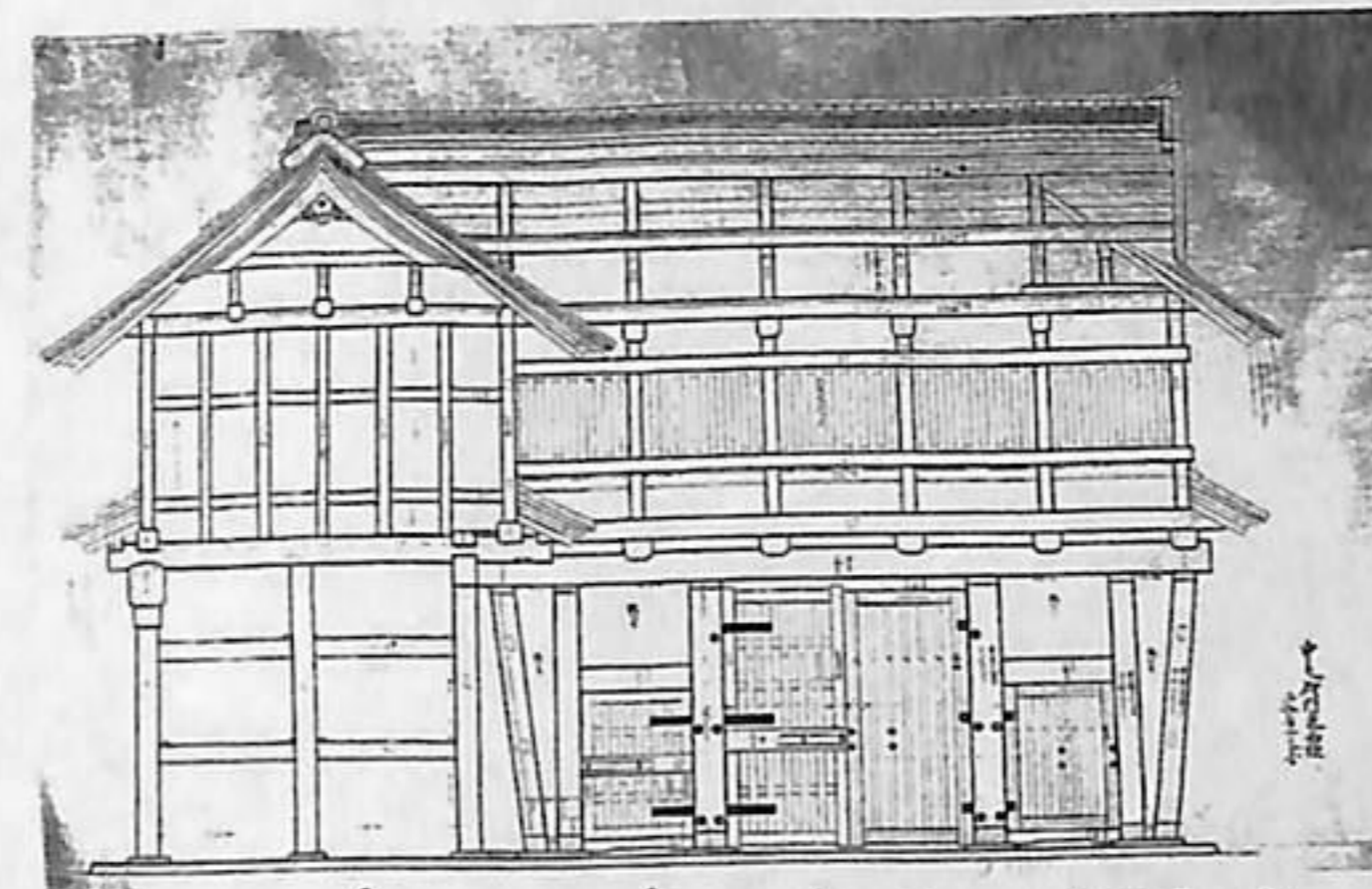
本丸御殿現況図



本丸様型

6) 道路を屈曲させる中の門——2の丸、3の丸、中郭、追手郭を進む

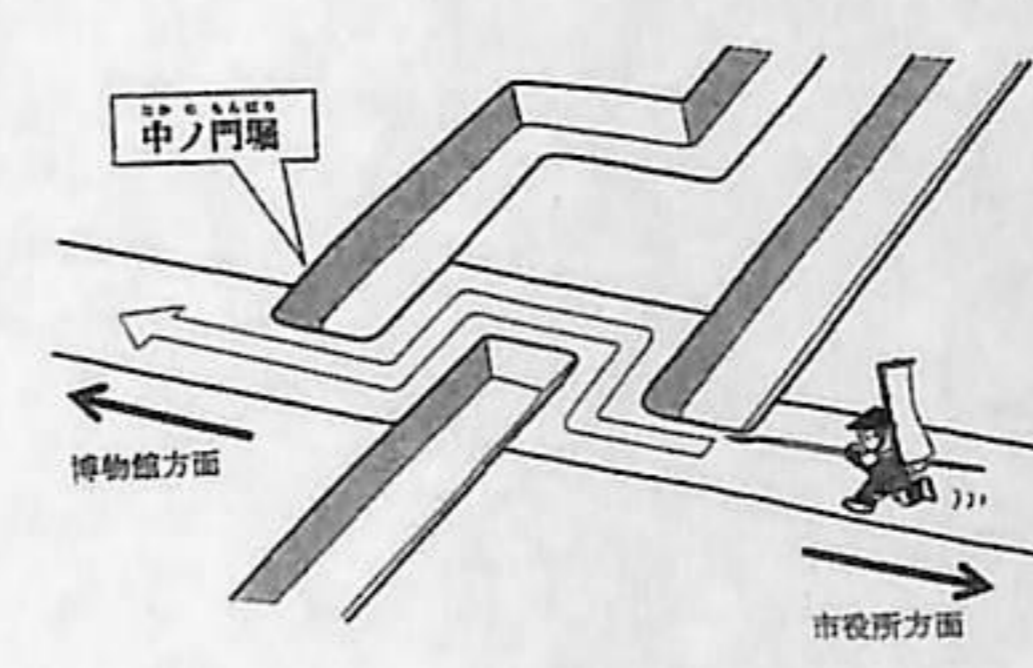
- ①本丸北門、虎櫓跡
本丸水濠跡(市営野球場)=地形を活用
2の丸跡(市立博物館)=武具方役所
2の門跡=2の丸と3の丸を分ける水濠に架かる
3の丸跡(川越高校)=3の丸御殿、馬場
3の門跡=3の丸と中郭を分ける三の丸水濠に架かる
中の郭跡=太鼓櫓、衆判所、会所、郡代所、上級藩士邸
- ②中の門堀=外堀の西大手門に続く二つ目の堀で平底の空堀と門。
空堀、土塁は右が2本で左が1本、敵兵が直進できないよう二重食い違い。大変珍しい門構造
堀幅18m、深さ7m、法面勾配は本丸側60度、外側30度。内側が切り立つ。
土塁、白壁漆喰塀
門はL字型2階建て櫓門、1階は通路で2階は射場。入母屋屋根、本瓦葺き。梁行き4.6m、桁行き9.2m
入り口の冠木門はイメージ。実在していない。
大きさや深さ、内側の切り立つ土塁に注目。攻防に思いをめぐらす。
- ③追手郭(川越市役所、市民体育館、初雁中学校、川越第一小学校)=武家屋敷
西大手門
外堀、丸馬出し
- ④太田道灌銅像
川越城、江戸城築城者。15世紀中ごろの武将。関東管領扇谷上杉定正に仕え、古河公方との戦いに連戦連勝、武功を立てるが中傷されて暗殺された。
- ⑤大手門碑、縄張り図碑



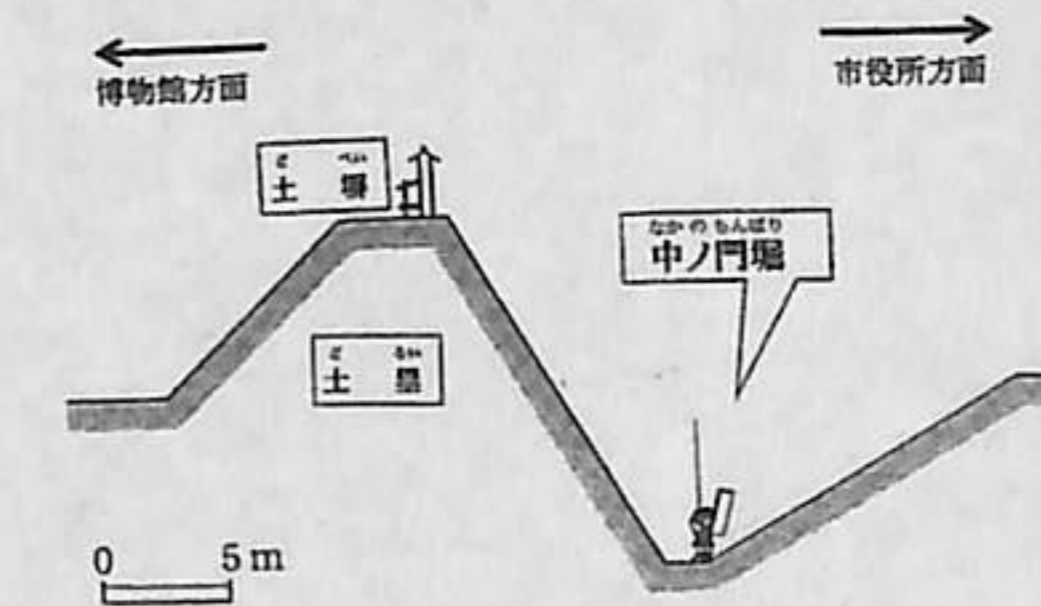
中の内(やぶ内)



中の門堀



第3図 中の内堀のしくみ(1)



第4図 中の内堀のしくみ(2)



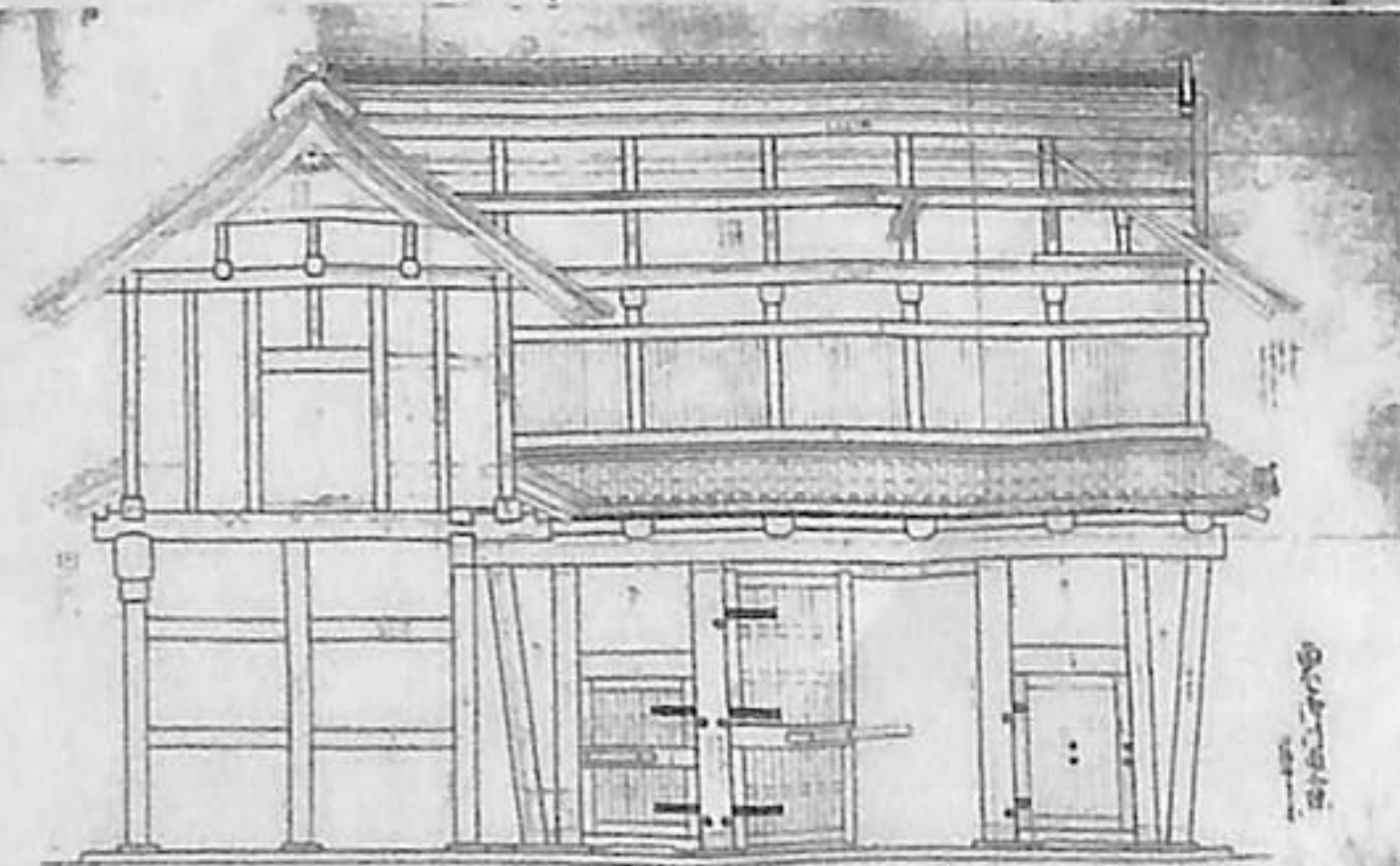
太田道灌像と大手門碑



2の丸跡



大手門、川越城跡



中の内(やぶ内)

7) 金太郎飴とおしるこ——小江戸・蔵の町と菓子屋横丁で解散
榎本、大高担当
時の鐘、蔵の町、札の辻、菓子屋横丁

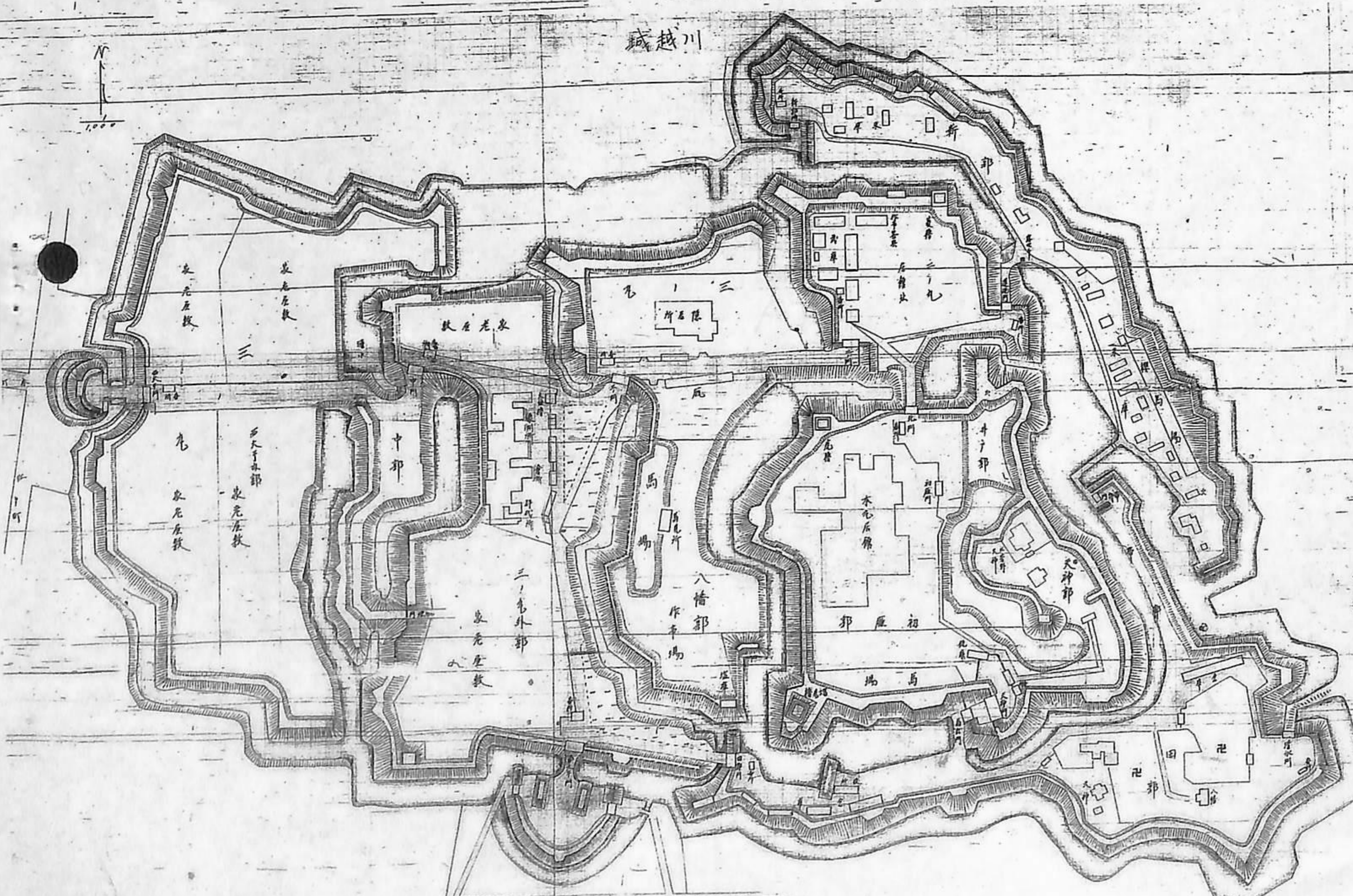
8) 15時30分ころ解散
蔵の町を自由散策、お買い物やお食事をお楽しみください。
スタートの本川越駅まで徒歩20分、バスは蔵の町通りを頻繁、途中のバス停留所からどうぞ。
以上



菓子屋横丁「玉力製菓」
金太郎アメの製造工程を見学
します



蔵造り一番「金笛」濃口「笛木醤油」
ギャラリーとお醤油味の「おしるこ」
を楽しみます



松山城

3月定例会「おしるこ見学会」
の思い出
3月11日(火)

松山城 菅谷 録



次回のご案内

5月定例会＝
5月15日東西線竹橋駅
江戸城を学ぶ～石積みを中心に～

6月定例会＝6月6日バス見学会
西上州・小幡陣屋と
楽山園から前橋城

詳細は公報各号

川越城関連年表

年号	西暦	関連事項
長祿元年	1457	太田道真・道灌父子、上杉持朝の命により川越城を築く。(「鎌倉大草紙」ほか)
天文6年	1537	北条氏康、川越城を攻略する。(「快元僧都記」ほか)
天文15年	1546	上杉憲政・朝定、古河公方足利晴氏を擁して川越城の北条綱成を攻める。北条氏康来援して上杉・足利連合軍を破る。(「北条五代記」、「北条記」ほか)
天正4年	1576	大道寺政繁、北条氏政の命により川越城を修築する。(「妙本寺文書」)
天正18年	1590	酒井重忠、川越に入封、1万石を拝領する。(「寛政重修諸家譜」)
天正19年	1591	酒井重忠、川越連雀衆に新宿の諸役免除の特権を与える。(「新編武蔵風土記稿」)
慶長14年	1609	酒井忠利、川越に入封、2万石を拝領する。(「寛政重修諸家譜」)
寛永元年	1624	酒井忠利、足軽町を割り付ける。(「元禄十五年河越御領分明細記」)
寛永12年	1635	堀田正盛、川越藩主となる。(3万5千石)(「寛政重修諸家譜」)
寛永15年	1638	川越に大火が起こり、城と城下の大半を焼失する。(「里野山御建立記」ほか)
寛永16年	1639	松平信綱、川越藩主となる。(6万石)(「寛政重修諸家譜」)
慶安3年	1650	この年、川越城修築工事を開始する。(水村家文書「万日記」)
承応元年	1652	川越城惣廻りの土手が築かれる。(「榎本弥左衛門覚書[万之覚]」)
承応2年	1653	川越城大手門が建つ。(「榎本弥左衛門覚書[万之覚]」)
明暦2年	1656	三芳野天神社修復工事が竣工する。川越城の門、大風により破損する。(「榎本弥左衛門覚書[万之覚]」)
元禄5年	1692	松平信輝、川越城内に八幡社を建立する。(「河越御城内天神御社地并寺院由緒書」)
元禄7年	1694	柳沢吉保、川越藩主となる。(7万2千石余)(「寛政重修諸家譜」) 大風雨のため、川越城内各所が破損する。城の修復を老中に願い出る。(柳沢文庫「楽只堂年録」)
元禄14年	1701	川越地方に水害が起こり城中の堤なども崩壊する。(柳沢文庫「楽只堂年録」)
享保9年	1724	城内勘定所より出火する。その後勘定所は三ノ丸へ移転する(北野家文書「鍛冶町月行事記録」・「多濃武の雁」)
享保13年	1728	川越領内各所に洪水が発生する。城内虎橋が損壊する。(北野家文書「鍛冶町月行事記録」)
享保14年	1729	城下に火事が発生する。その後、下町より見付に広小路を構える。(「川越素題」)
明和4年	1767	松平朝矩、川越藩主となる。(15万石)(「寛政重修諸家譜」)
天明5年	1785	富士見櫓の修復が始まり、修復中には武具方より番人を置く。(「前橋藩松平家記録」)
享和元年	1801	川越城普請上棟式が行われる。(「前橋藩松平家記録」)
天保12年	1841	松平齊典が2万石の加増を受け、川越藩領が最大の17万石となる。(「統徳川史紀」)
弘化3年	1846	川越城二ノ丸居住所付近より出火、藩主御殿、武具方役所などを焼失する。(「前橋藩松平家記録」)
嘉永元年	1848	川越城本丸に御殿が再建される。(「川越城本丸御殿棟札」写)
安政2年	1855	安政大地震により、富士見櫓が崩れる。(「前橋藩松平家記録」)
慶応元年	1865	川越藩、川越城の地理、建物などを幕府に調査録上する。(「維新史料綱要」)
慶応2年	1866	松平大和家前橋移城に伴い、川越城を測量する。(「武陽入間郡川越御城内分間野帳之写」) 松平康英、川越藩主となる。(8万石)(「維新史料綱要」)
明治2年	1869	川越城が破損し、川越藩は城郭を台場型に改修することを請う。(「埼玉県史料叢書6(上)」)
明治3年	1870	川越藩、城を廃棄し開墾することを許される。(「埼玉県史料叢書6(上)」)
明治4年	1871	廃藩置県により、川越藩は川越県となる。川越県が廃され、入間県が置かれる。(「川越市合併史稿」)